

正龍寺(大里郡寄居町)

しょうりゅうじ

ここが花園城主の藤田氏が創立した正龍寺で、十五代城主の藤田康邦の墓があるという/正面は総門



総門の向こうは山門





奉 贈

南無普賢菩薩

正 龍 寺

曹洞宗の寺院で、高標山経源院といいます。
正龍寺の創立は、尾國城主藤田五郎政行で、高標山に菩提権現を祭り、一寺を創立す、といいます。徳川の時代、文治4年(1187年)城下に青龍が出現し、龍泉の湖をつくり、住んだといわれており、貞和4年(1324年)藤原家の御堂高和が、山号を普賢寺と号しました。天文元年(1532年)十五代城主藤田康邦のとき、乾崩端元和高が教化し、龍泉の湖の青龍を化龍して、「八大龍王、各この寺に祀りました。普賢寺は、後に正龍寺と改称され、天正19年(1591年)徳川家康の時代に現在の寺号正龍寺になりました。
境内には、藤田康邦夫妻や藤田康正北条氏邦夫妻の墓(いずれも茶臼定史跡)があり、また、県の天然記念物に指定されている玉垂の滝といわれている花水もあります。



しょう
正

りゅう
龍

じ
寺

曹洞宗の寺院で、高根山藤源院といます。

正龍寺の創立は、花園城主藤田五郎政行で、高嶺山ほこねごんげんに菅根権現を祭り、一寺を創立す、といます。能国の時代、文治4年（1187年）城下に青龍が出現し、龍泉の湖をつくり、住んだといわれており、貞和4年（1348年）臨済宗の僧實翁和尚が、山号を青龍寺と号しました。天文元年（1532年）十五代城主藤田康邦のとき、乾翁瑞元和尚が教化し、龍泉の湖の青龍を化龍して、“八大龍王”をこの寺に祀りました。青龍寺は、後に昌龍寺と改名され、天正19年（1591年）徳川家康の時代に現在の寺号正龍寺になりました。

境内には、藤田康邦夫妻や鉢形城主北条氏邦夫妻の墓（いずれも県指定史跡）があり、また、県の天然記念物に指定されている玉垂たまだれの楓かえでといわれている名木もあります。

山門/仁王門となっている



山門の横には鐘楼がある



「花園城主藤田家、鉢形城主北條家 香華院」とある



石碑には「埼玉県指定 鉢形城主北條氏邦墓、付夫人大福御前墓、花園城主藤田康邦墓、付夫人西福御前墓、玉垂の楓」とある



六地藏もある



正龍寺の左手の善導寺は藤田氏の菩提寺



さまざまな石造物が立っている



振り返って総門方向を見たところ



山門







境内側から山門を見たところ



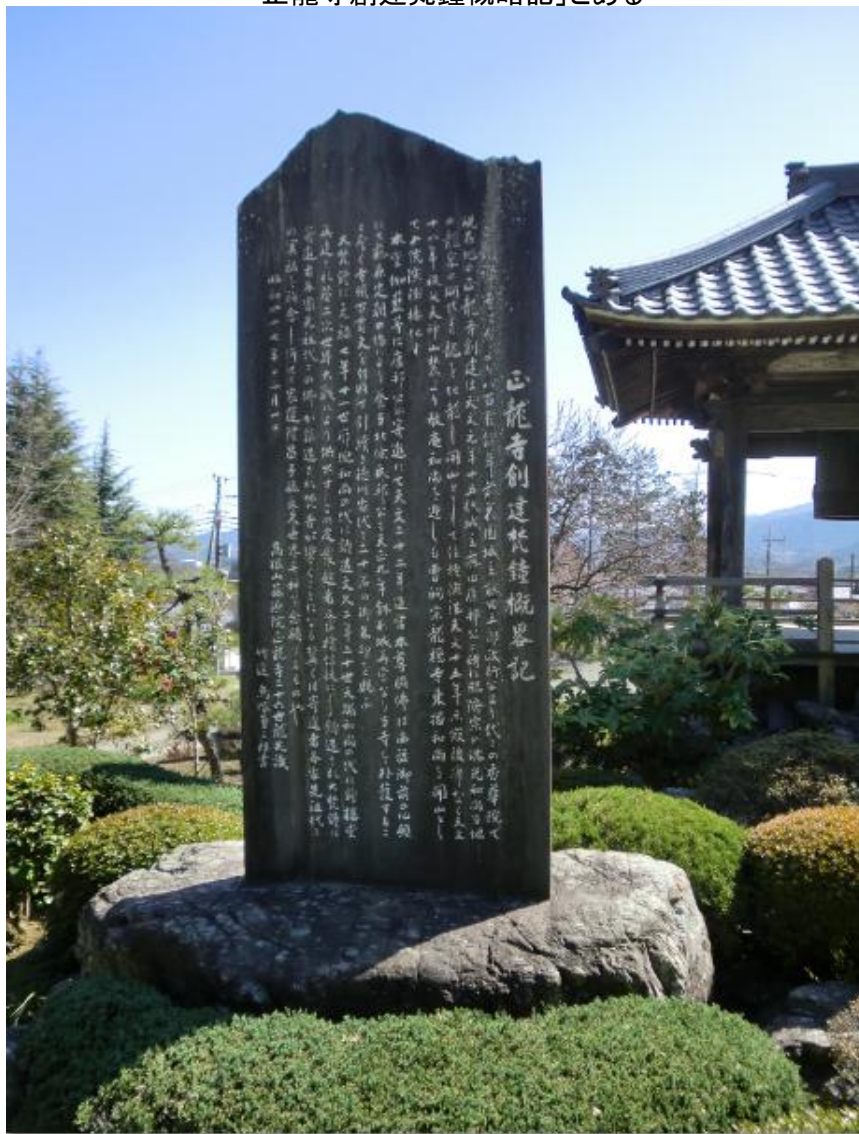
これは本堂



鐘楼と昭和47年に鑄造された大梵鐘の概略記(左手)



「正龍寺創建梵鐘概略記」とある



さて、右手への案内矢印と説明板がある/左手は宝物庫か





正覚寺
深空曹洞宗、花園城主松田清和の別荘
往古菅野なりし所、松田氏の
松田氏の別荘跡に
化し、この地を削いて
中へ、鎌倉時代
所在の文化財
一、園地定家松田清和
二、松田定家松田清和
花園城主松田清和
林形城主松田清和
夫人松田清和
夫人松田清和
王重の墓
空閑女園地
仙居、松田の園地
菅田二道
北条氏松田氏に
氏松田清和の墓せし
日蓮宗、正覚寺
寄居町教育委員会

寄居町教育委員会

正竜寺

禪宗曹洞派、花園城主藤田康邦の開基
往古萱野なりし頃、池中に竜の窟ありしを
臨濟宗の僧、乾翁瑞元といえるもの教
化し、この地を開いて一寺を建立すと
ゆう。後曹洞宗となる

所在の文化財

一、国指定重要美術品

蔣繪竹虎紅葉形鼈甲小箱

二、県指定史跡及天然記念物

花園城主藤田康邦の墓

夫人西福御前の墓

鉢形城主北条氏邦の墓

夫人大福御前の墓

玉垂の楓

三、町指定文化財

靈照女の図 (繪二画)

仙男、仙女の図 (繪二画)

書朝三通

北条氏政より氏邦に寄せしもの一通

氏邦の方丈に寄せしもの二通

昭和四十二年七月

寄居町教育委員会

この建物が墓の覆堂のようだ



覆堂の正面に説明板がある



埼玉県指定史跡

藤田康邦墓 付夫人西福御前墓

埼玉県指定史跡

北条氏邦墓 付夫人大福御前墓

指定 大正十五年二月十九日
所在 寄居町大字藤田一〇二—一(正龍寺内)

藤田康邦は、正龍寺の西の山上に築いた花園城及び周辺の藤田郷を中心とする地域を支配した在地領主の藤田氏十五代当主と伝えられている。

藤田氏は、武蔵七党と総称される中小規模の武士団のひとつである猪俣党の系譜を引いており、室町時代には関東管領を世襲した上杉氏の一族山内上杉家の重臣として活躍した。

康邦は、北条早雲を祖とする後北条氏の北関東支配が強まる中で、北条氏康の三男氏邦を養子に迎え、娘の大福御前を妻あわせた。康邦の没年は、天文二十四年(一五五五)、夫人の西福御前は永禄五年(一五六二)である。

北条氏邦は、藤田氏の名跡を継いで天神山城に入ったが、永禄年間に鉢形城を改修して居城とし、後北条氏の北関東経営の拠点とした。天正十八年(一五九〇)豊臣秀吉に降伏した後は、前田利家に預けられ能登国七尾で晩年を過ごした。没年は慶長二年(一五九七)と伝えられている。

なお、夫人の大福御前は、文禄二年(一五九三)正龍寺で死去している。戦国期の宝篋印塔ほうせついんたとしては大型で、笠に彫られた蕨手あざむねや豎連子の文様等に特徴があるこの四基の墓は、戦国末期の領国支配と戦国大名の動静の一端を如実に物語っている。

平成六年三月

埼玉県教育委員会
寄居町教育委員会



藤田康邦とその夫人の宝篋印塔



こちらは北條氏邦とその夫人の墓



参考ホームページ

<http://amoyoroshi.blog.fc2.com/blog-entry-65.html>

<http://lady-amo.jugem.jp/?eid=226>

<https://www.1059do.com/room11.htm>

<http://tutinosiro.blog83.fc2.com/blog-entry-419.html>

